

## §準備のいらぬワークショップ§

## 6-1 スマホを使って自己評価のシナリオ

ワークショップリーダー：W.L. 解説：\*

W.L.：これから「スマホを使って自己評価」のワークショップを始めます。

皆さん、「評価」はなぜするのでしょうか。

「評価」とは、次の発表を、より良いものに行います。このワークショップでは、評価の一つである「自己評価」に焦点を当てます。ご自分のスピーチでの態度や話し方を客観的に見つめることで、次にスピーチを発表するときの改善点を知っていただきます。

W.L.：まず、このワークショップの二つのルールをご説明します。

一つはメンバー全員に話す機会を与えること。

二つ目は私が手を挙げたら、参加者も手を挙げ作業を中断して私を見るということです。では、始めましょう。

W.L.：最初に、グループを作りましょう。

着ている洋服の色が似ている人と3人で一組になって、向かい合って座ってください。

そして、簡単に今の気持ちを一人一言で話してください。

一言とは、例えば「うれしい」「ドキドキしている」などです。

(グループの中で、今の気持ちを一人一言で話す)

W.L.：(W.L.は手を挙げる)(参加者は話すのをやめる)

グループの皆さんの今の気持ちがわかったところで、次の質問の答えを考えてください。

質問1 スピーチの練習をしますか？

質問2 練習後に何をしますか？

質問3 評価とは何だと思えますか？

グループでお話してください。時間は2分間です。

W.L.：(2分後、W.L.は手を挙げる)(参加者は話すのをやめる)

では皆さんに、質問します。スピーチの練習をする人は手を挙げてください。

(参加者が手を挙げる)

どんな練習をしますか？ はい、〇〇さん。

<例：何回も音読します。テープに録音します。>

では、その練習の後に何をしますか？ はい、〇〇さん。

<例：構成を直します。言葉を入れ替えます。声の出し方を変えてみます。>

そうですね。先ほどの練習を振り返って、構成や言葉を吟味しますね。そしてもう一度、練習しますね。今言った「振り返り」とは、他の言葉で言うと「評価」と言えます。

では皆さんに一番なじみのある評価とは何でしょうか。一番わかりやすいのは例会です。

例会の最後にすることは？

<総評>

はい、例会の最後は総評がありますね。また、スピーチの後は講評や文書評価があります。

評価者が、スピーカーの良い点や改善点について言葉を選びながら述べます。

評価者の学びの機会です。しかし、評価の目的はここに留まりません。

スピーカーは、評価を受けて、自分のスピーチの問題点がわかります。

そうすれば、次はどこをどう直したいかを決めて、もう一度練習することができます。

言い換えるなら、改善点を見つけるために評価があるのです。そして、今回のワークショップの目的は、自分自身の話し方をスマホの動画で見て自己評価をすることです。

W.L.：さて、今日のワークショップの流れを説明します。

これからグループ内で一人ずつスピーチをします。その際、スピーチの様子をご自分のスマホに録画します。撮影はグループのメンバーが行います。

W.L.：まずスピーチのテーマを差し上げますので、1分間、各自、心の中でご準備ください。

(テーマを与える。<例：〇〇料理、〇〇と言えば、最近のお気に入り等>)

- W.L. : さあ皆さん、1分経ちました。ではAさんからスピーチを開始します。  
BさんはAさんのスマホを預かって、Aさんを撮影します。スピーチの時間は1分です。  
準備はよろしいでしょうか。では、Aさんどうぞ。  
(1分後に手を挙げ、A～Cまで順にスピーチを始める)  
(スマホの撮影ができない参加者がいるときはサポートする)
- W.L. : では皆さん、録画されたご自分のスピーチを再生し、観察してください。  
イヤフォンがある場合は音声も聞き取り、気づいた点をメモしてください。  
時間は3分間です。(下記<観察ポイントの一例>1.2.を参考にしても良い)
- W.L. : (3分後、W.L.は手を挙げる)(参加者は話すのをやめる)  
今度は、ご自分のスピーチで気がついたことを、グループの皆さんと話し合ってください。  
時間は2分です。
- W.L. : (2分後、W.L.は手を挙げる)(参加者は話すのをやめる)  
さて、様々な気づきがあったと思います。では、今度はその気づきを生かしてみましよう。  
リベンジタイムです！ 2回目のスピーチを行います。テーマは同じです。
- W.L. : 今度はCさんからしてみませんか。Cさんからスピーチをして、Aさんは撮影します。  
準備はよろしいでしょうか。スピーチの時間は1分です。ではCさんどうぞ。  
(1分後に手を挙げ、C～Aまでスピーチする)
- W.L. : 1回目と2回目の観察でどんな変化があったでしょうか。  
録画されたスピーチを観察し、イヤフォンがある場合は音声も聞き取り、  
気づいた点をメモしてください。時間は3分間です。  
(下記<観察ポイントの一例>1.2.を参考にしても良い)
- W.L. : (3分後、W.L.は手を挙げる)(参加者は話すのをやめる)  
では、1回目と2回目のスピーチを観察して、どんな変化があったか気づいた点について  
グループ内で2分間話し合ってください。
- W.L. : (2分後、W.L.は手を挙げる)(参加者は話すのをやめる)  
グループ内で話した気づきを、皆に話してみたい方はどうぞ手を挙げてください。  
(参加者が気づきを発表する)
- W.L. : (まとめ)さて、皆さんから貴重な意見が出ましたが、スマホは、自分のスピーチに見える化  
して、客観的な自己評価につなげる、とても有効なツールだとお気づきいただけたようです。  
自分の姿をスマホで見ることで、スピーチでの態度や話し方を客観的に見つめることができ、  
次のスピーチが改善される可能性があるということを知っていただけたら幸いです。気づいた  
ら直せるかもしれません。スマホを活用してスピーチの練習、上達に役立ててください。
- W.L. : 質問がございましたらどうぞ。

- \* スマホの撮影方法で手間取ることが予想される場合は、参加者に事前に、各自のスマホの録画と再生機能を使えるように伝えておくと、ワークショップが円滑に進行する。
- \* W.L.は、スマホを持っていない参加者がいないか気を配る。  
他のメンバーのスマホで撮影し、録画を見ることができるよう呼びかける。
- \* 3人一組で向かい合って座ると、グループのメンバーの顔を自然に見渡せ撮影もしやすい。  
この三角の関係は、参加者にとって心地良いとの報告がある。

以上

<観察ポイントの一例>

1. 態度	2. 話し方	3. 撮影方法
姿勢	内容	場所
目線	声の大きさ	範囲
服装	速度	向き
動き癖	話し癖	回数